

ICT 活用による地域防災

- 1 現状と課題 ○安心できる地域社会の実現に向け、ICT の果たす役割は増々大きくなってきている。災害時のみならず、防災のためにも ICT の活用は非常に重要であり、については、防災啓発活動や、防災訓練等を支援したり、防災に係る情報収集・分析・伝達を支援するツールとして地域に根付かせる体制や仕組みを構築したりすることなどが求められている。
- 2 期待される効果 ○ICT 機器の取扱いに慣れていない方々に対し、これらに慣れ親しむ機会をつくることで、防災に係る情報共有の促進が期待できる。
○高校生等の世代と高齢者等が協働しながら学ぶ機会を設けることにより、世代を超えた関係構築を促すことができる。これは、ひいては防災以外の、地域課題解決にもつながるなど、副次的効果も期待できる。
○ICT 機器の利活用を地域に根付かせる体制や仕組みを構築することで、地域住民の自助(災害情報を自ら収集し避難行動に役立てる)・共助(得られた災害情報を元に近所の支援)を促すことが期待できる。
- 3 事業実践方法 (1) 概要(目的)
- 県北地域を対象に、モデル地区を選定(R4:2市 2 地区、R5:4市 4 地区)。当該地区の住民等を対象に、防災や発災時等における ICT の役割や課題、その他、各自治体における取組を学び、意見交換をする場を設けた。
 - 続いて、ICT 機器のヘビーユーザーである高校生に、県や市町が推奨している緊急速報・安否確認・災害情報・避難所情報・生活支援等のシステムの操作方法を学んでもらう、学習会の場を設けた。
 - さらに、これら高校生が指導員となり、モデル地区のコミュニティの代表者、防災担当者や自主防災組織、また、高齢者を始めとした地域住民を対象に、システム操作方法を学ぶ研修会の場を設けた。

(2) 対象者・下記(委員)に同じ

(3) 委員の構成 (R4)令和4年度委員 (R5)令和5年度委員

所属	役職等
北茨城市 教育委員会	生涯学習課長補佐
北茨城市 総務部 総務課危機管理室	危機管理係主任
防災士(北茨城)	
北茨城市関本小・中学校CS学校運営協議会 (R4)	会長 副会長(2名)
北茨城市中郷町上桜井区自主防災会 (R5)	会長 副会長(2名)
日立市 総務部 防災対策課	課長 主幹 主事
日立市 教育委員会 生涯学習課	社会教育主事
日立市田尻学区コミュニティ推進会(R4)	会長、副会長、自主防災防犯部会長
日立市坂下地区コミュニティ推進会(R5)	副会長 事務局長
防災士(日立市)	
常陸太田市 教育委員会 生涯学習課	社会教育主事 主任
常陸太田市 幸久公民館(R4)	館長、主事
常陸太田市 郡戸公民館(R5)	館長 活動協力員 主事
高萩市 市民生活部危機対策課	主事
高萩市島名団地地区自主防災会(R5)	会長 会員
茨城県 防災・危機管理部 防災・危機管理課(R4)	防災ICT推進担当リーダー
茨城県教育庁総務企画部生涯学習課	係長 主査
県北教育事務所	主任社会教育主事
茨城大学理工学研究科(工学野)都市システム工学領域	教授

(4) 具体的な取組について

①会議・交流会(議)等

期 日	内 容	対象者	備考
令和4年 6月23日(木)	第1回交流会議 講話「災害時の情報発信・収集の取り組みについて」「自然災害における避難とICTに関する考察」 ワーク「地域防災の課題とICTの役割」	県北2市モデル地区住民、行政12名、 講師 茨城県防災・危機管理部防災・危機管理課 防災ICT推進担当リーダー 講師 信岡尚道氏 茨城大学教授	防災ICTにおける茨城県の取組を紹介し、ICTの役割を共有した。
令和4年 12月7日(水)	第2回交流会議 講話「茨城県における災害時の情報発信・収集の取り組み」「地域防災に果たすICTの役割と地域連携」 ワーク「地域防災の課題とICTの役割」	県北2市モデル地区住民、行政14名、 講師 茨城県防災・危機管理部防災・危機管理課 防災ICT推進担当リーダー 講師 信岡尚道氏 茨城大学教授	県等行政の課題とICTの果たす役割について検討した。



令和4年6月23日 第1回交流会議

令和4年12月7日 第2回交流会議

県北生涯学習センター

講師 信岡 尚道 氏 茨城大学教授

大関 裕之 氏 茨城県 防災・危機管理部 防災・危機管理課

防災ICT推進担当リーダー

期日	内 容	対象者※1	備考※2
令和5年 6月11日(日)	県域フォーラム及び第1回交流会議 世代間をつなぐ地域づくり～ICT活用による地域防災～ 基調講演「ICT活用による地域防災」「未来のいのちを守るために」 ワーク「地域防災におけるICTの可能性」	県北4市モデル地区住民、行政23名、他 センター(オンライン)135名 計158名 講師 信岡尚道氏 茨城大学教授・川崎 杏樹氏 トモス職員	被災地の現状、ICT活用の意義と地域の絆の重要性を研修・共有
令和5年 12月7日(木)	第2回交流会議 基調講演「防災ICTによる早期の備えと避難」「台風13号による水害被害について」 ワーク「地域防災におけるICTの可能性」	県北4市モデル地区住民、行政19名 講師 信岡尚道 氏 報告 北茨城市危機管理室・高萩市危機 対策課・日立市防災対策課	水害被害と復旧状況を共有し、地域防災や早期避難へのICTの可能性を検討した。



令和5年6月11日

県域フォーラム及び第1回交流会議

県北生涯学習センター

講師 信岡尚道氏 茨城大学教授

川崎杏樹氏 トモス職員



令和5年12月7日
第2回交流会議
県北生涯学習センター
講師 信岡尚道氏 茨城大学教授



令和5年12月7日
第2回交流会議
「台風13号による水害被害について」報告
報告者 北茨城市危機管理室・高萩市危機対策課・日立市
防災対策課

※工夫点・留意点

- ・交流会議においては、課題の共有を図るとともに、防災アプリ活用の事例などについて学んだ。
- ・交流会議における工夫点として、モデル区以外にも対象を拡大した「県域フォーラム」(県内5つの生涯学習センターをオンラインで結び、課題の共有等を図るもの)を開催し、多くの示唆に富む基調講演を聴き、各センターでそれぞれのテーマに即した分科会を実施した。県北生涯学習センターは「地域防災におけるICTの可能性」について意見交換を行った。

②研修・ワークショップ・講座等

期日	内容	対象者	備考
令和4年 5月7日(土)	「ヤングボランティア育成研修」 スマホアプリを活用した防災ICTを習得	高校生151名 講師 福嶋アダム氏 気象予報士・防災士	高校生対象にボランティアの基本と防災アプリの設定・操作研修

期日	内容	対象者※1	備考※2
令和5年 5月7日(日)	「ヤングボランティア育成研修」 スマホアプリを活用した防災ICTを習得	高校生66名 講師 福嶋アダム氏 気象予報士・防災士	高校生対象にボランティアの基本と防災アプリの設定・操作研修



令和4年5月7日(土) ヤングボランティア育成研修

令和5年5月7日(日)ヤングボランティア育成研修

高校生の防災アプリの習得 講師 福嶋アダム氏(気象予報士・防災士)

※工夫点・留意点

- ・参加した高校生については、防災システムの活用方法を学ぶ事前準備として、ICT活用による防災の意義を学んでもらった。
- ・楽々フォンや高齢者の身体的特徴等を理解し、何に躓いているのかしっかり聞くことから始めることを学んだ。

③実践 地域防災研修会 高校生・大学生が指導する地域の方々対象の防災アプリ研修

期日	内容	対象者※3	備考※2
令和4年 7月17日(日)	モデル地区:北茨城市関本 会場:北茨城市生涯学習センター	地域住民13名 高校生6名	自主防災組織への周知 学区小学校へのチラシ配布
令和4年 8月7日(日)	モデル地区:常陸太田市幸久 会場:幸久公民館	地域住民22名 高校生6名	公民館だよりへの掲載 自主防災組織への周知 近隣公民館への周知
令和4年 8月21日(日)	モデル地区:日立市田尻 会場:田尻交流センター	地域住民12名 高校生3名・大学生4名	交流センター内での広報 自主防災組織への周知
令和4年 11月3日(木)	高校生指導による防災アプリ操作体験	一般参加者27名 高校生4名	フェスティバルチラシ及びHP等 で広報



令和4年7月17日(日)
北茨城市関本地区
会場:北茨城市生涯学習センター(トレフル)
講師 信岡尚道氏 茨城大学教授・内藤康子氏 MOT



令和4年8月7日(日)
常陸太田市幸久地区
会場:常陸太田市幸久公民館
講師 信岡尚道氏 茨城大学教授・内藤康子氏 MOT



令和4年8月21日(日)
日立市田尻地区
会場:田尻交流センター
講師 信岡尚道氏 茨城大学教授・内藤康子氏 MOT

期日	内容	対象者※3	備考※2
令和5年 7月16日(日)	モデル地区:常陸太田市郡戸 会場:郡戸公民館	地域住民24名 高校生5名 大学院生1名	郡戸地区での回覧板及び自主 防災組織への周知 近隣公民館への周知
令和5年 7月30日(日)	モデル地区:北茨城市中郷町上桜井 会場:市民ふれあいセンター	地域住民18名 高校生5名	チラシを26常会へ配布及び地 区お祭りで周知 自主防災組織への周知
令和5年 8月20日(日)	モデル地区:日立市坂下 会場:久慈川日立南交流センター	地域住民19名 高校生5名	チラシをかわら版さかしたと同時 配布 自主防災組織への周知
令和5年 8月27日(日)	モデル地区:高萩市島名 会場:総合福祉センター	地域住民29名 高校生6名	自主防災組織への周知 学区小学校へチラシ配布



令和5年7月16日
常陸太田市郡戸地区
郡戸公民館
講師 信岡尚道氏 茨城大学教授
内藤康子氏 MOT



令和5年7月30日
北茨城市上桜井地区
市民ふれあいセンター
講師 信岡尚道氏 茨城大学教授
内藤康子氏 MOT



令和5年8月20日
日立市坂下地区
久慈川日立南交流センター
講師 信岡尚道氏 茨城大学教授
内藤康子氏 MOT



令和5年8月27日
高萩市島名地区
総合福祉センター
講師 信岡尚道氏 茨城大学教授

※工夫点・留意点

- ・高校生世代と地域の大人との交流の場が作れた。若者にとって当たり前のスマホ操作を教えることが、地域の方々にとっても喜ばれる活動になるとの認識をもってもらった。地域の中で交流の場所となるコーディネートを意識した。
- ・防災アプリは、発災後に活用できるかどうかは分からない。複数の情報源の一つとして活用し、自助や近隣との助け合いの一助とする。スマホや SNS 等に過度に依存するのは避ける等、日頃からスマホやアプリとの付き合い方も学んでいく必要があるとの内容を加味した。これは県域フォーラム時の川崎氏からの提言を元に留意した点である。
- ・公共施設で Wi-Fi 環境が整備されていない場合が多く、Wi-Fi レンタルで 40 台分の接続を確保した。特に、参加者、高校生ボランティア、講師及びスタッフで機種を指定して使用した。
- ・スマホアプリのインストールがスムーズに行えるよう QR コードを添付した資料を準備した。
- ・各モデル地区の代表者、講師、高校生ボランティアとスタッフで毎回振り返りを行い、実践研修のブラッシュアップと地域への還元を心掛けた。
- ・各モデル地区の代表者、講師及び高校生と事務局において、研修会ごとに振り返りの場を設け、各研修のブラッシュアップを心掛けた。
- ・各システムの操作方法を学ぶのと同時に、発災時にはシステムがダウンしている可能性なども考慮し、当該システムに頼りすぎることのないようにする必要性についても学ぶ機会を設けた。
- ・高校生と、高齢者を始めとした世代間交流が促進された。高校生にとっては、自身の得意分野が地域の方々の力になった、ということが、自信につながった様子が見られた。これをきっかけに、地域課題に取り組める大学を目指す学生も現れた。

<実施にあたって(改善点・留意点)>

- ・スマートフォンのキャリアによる違いを認識し指導する必要がある。特に、所謂「らくらくフォン」はアプリの制限や基本操作が大きく異なる場合があり、注意が必要である。
- ・高校生世代の若年層と高齢者をつなぎ、防災を媒介とした交流の場が作れたことは大きな成果である。今後は、地域でスマホ活用を指導できる地域人材の育成も重要である。特に、防災の知識を持つ防災士の方々に参加を促し、地域防災における情報共有の任を担う人材として活躍の場を創っていく必要がある。
- ・ICT 活用による地域防災を指導できる人材が、防災訓練や日常の情報共有等でも重要な役割を果たすために組織化や育成研修等が重要になる。

・防災アプリ操作研修会 4 地区合計 77 名のアンケート調査で、防災アプリを使ってみたいかとの問いに、引き続き使っていく 55 名(71.4%)、今後使っていきたい 21 名(27.3%)で 76 名(98.7%)の方が防災アプリの活用を意識していた。また、研修会の満足度は、大変満足 31 名(40.3%)、満足 42 名(54.5%)と大変高く、防災アプリの有用性を感じてくれている。

・今回の研修で、大雨等の情報を自己判断でなくきちんとデータを見て判断する必要性を強く感じた。数ある情報の中から信頼できる情報を見つけることや知りたい地域の防災・災害情報が見つけられるようになったとの喜びの声がアンケートのご意見に多かった。

・今後の取り組みの期待として、「地域全体でのスマホアプリの活用研修」が 32 名(41.6%)、「アプリを活用した避難訓練」が 28 名(36.4%)、「引き続き本研修会を実施して欲しい」が 27 名(35.1%)と続いている。地域に正しい情報を収集できる方を増やすことで、地域全体での防災意識向上や適正な避難行動に繋げていきたいとの思いを強く感じた。

・高校生ボランティアについてアンケート調査では、「よくサポートしてくれた」68 名(88.3%)、「高校生がいることで楽しかった」25 名(32.5%)、「教え方が上手だった」23 名(29.9%)と続き、大変好評であった。ご意見には、高校生の親切な操作サポートがあり、安心して学ぶことができた。高校生が積極的に声をかけ笑顔で対応してくれ、素晴らしいサポートをしてくれた。

・高校生へのアンケートから、年上の方とお話する良い機会、感謝されてとても嬉しかったと、多くの高校生が挙げている。また、普段からたくさんアプリを使っている高校生も防災アプリは分からないことが多く、地域の方々と楽しく会話をしながら学び合ったことが楽しかったとの感想を述べている。防災アプリのことを知らない高校生は多く、県の公式 LINE 等の取り組みも知り、これから活用していきたいとの声もあった。

・多くの高校生は、スマホの操作スキルだけではなく、会話をすることで喜んでもらえるとの体験をし、「これからも様々な人の力になれるように頑張りたい」や「機会があればまたボランティア活動に参加したい」と、人と関わることへのモチベーションが向上した。

・防災士の方からは、災害の発生しやすい地点は分かっているので近所でのサポート体制を作っていく必要を感じ、具体的な自助・共助のための情報収集に防災アプリが有用であるとの感想を持たれていた。